

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200063		
法人名	有限会社ラポール新世園		
事業所名	グループホームきずなの郷		
所在地	熊本県八代市古閑下町2225番地		
自己評価作成日	平成22年2月8日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成22年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 毎日の生活の中で、出来られる事・好まれる事等本人のペースで発揮できる場面を多く作ったり、日常の関わりの中で気づくことで体調変化時は速やかに医療機関への連絡・連携を保ち、本人・家族の心身の負担の軽減につなげられるようにしている。
 * 研修委員を1名配置し、県・市・医療機関・他事業所等の研修予定情報を把握し研修情報・出席を促したりする。研修会へ参加し報告書を書くことで再度の知識・意識の向上と実践へとつなげられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者や管理者の地元でもありそれを活かして日常の挨拶から地域行事のイベント訪問なども多数行われているようです。研修委員会が法人にあり各事業所に担当者を決められていることで、全職員の研修や勉強会参加が活発に行われ、それに伴い職員の意識向上にも繋がっているようです。日常的な外出支援から利用者それぞれがお弁当を持参したイベント外出支援の取り組みや利用者のアルバム作成など、積極的に取り組まれています。日常のケアの質の向上や各行事に利用者全員で参加すること等事業所全体で取り組まれているようですが、生活と共に変化する利用者それぞれの思いや意向を個別計画に反映され、より一層のサービス向上を目指されることを期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	: 家庭的な環境と地域密着型サービスの意義を確認しその人らしい生活送れるよう、職員と共に理念を作り、朝の申し送り後に利用者を交えたりしながら理念の唱和を行い、理念の意義を再確認する。	理念は玄関や食堂に大きく掲示され、毎朝利用者と共に唱和されています。日常の言葉かけにも理念を念頭に置き対応するよう心掛けておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	: 経営者・管理者は現在も同地域にて生活を営み日頃より近隣の方々共交流あり、時期々に花・他等の差し入れある。新型インフルエンザ流行にて実現できなかったが、地区の学生ボランティア慰問交流希望ある。	経営者や管理者が地元在住という利点を活かし、日常的な付き合いがあるようです。法人経営の有料老人ホームやデイサービスと共に法人全体での地域交流をされ、老人会の中学生のボランティア活動の受け入れがされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	: 運営推進会議等で地域の高齢者のケアサービスの推進や還元施設利用やスタッフの活用など、貢献を図りたい旨の提言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	: 前回の推進会議での検討事項や懸案事項について、その経過を報告し合い又、現在取り組んでいる・予定している内容についても報告し意見をもらうようにしている。	2ヶ月に1回開催され、行事報告や予定等について検討が行われています。今の時期(冬場)は火災時の対策等も活発に意見交換が行われているようです。家族会からの意見を下に運営推進会議の家族参加も交代制で全員参加されるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	: 運営推進会議や事業所の行事等も案内を出し、出席してもらっている又、現場の課題解決の為、相談や意見・報告なども日頃より連絡を取っている。	運営推進会議や八代グループホーム部会、市町村主催の研修等での連携や日頃悩んだ事など市町村に出向き相談されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	: 勉強会・ミーティング等で11項目の身体拘束の禁止行為の確認、身体拘束を誘発する原因を探り除去する為に状態観察スタッフ間の情報の共有を図っている。	研修会や勉強会を通じてスタッフ間の知識を深める機会も多くなっているようです。安全対策としてセンサーマット利用をされている方には介護計画にあげられ家族に説明されています。	なぜセンサーマットを利用することになったのか、他に代替方法はなかったのか、いつ利用するのか等々それに至った経緯等細かい分析をされることで、一層の質の向上を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	: グループホーム部会や医療機関関係の認知症研究会主催の研修会等へ参加し、勉強会・ミーティング等を実施し、理解浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	: 外部の地域連絡部会や他事業者協議会等が主催する成年後見制度の研修会に参加したり、施設内部の勉強会でも研修を行い職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	: 契約時には、事業所のケアに関する考え方や取組、退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っているが、家族の疑問など感じた場合は十分な説明を行い、同意を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	: 運営会議に利用者・家族の参加あり、家族会でも意見・要望等を伺い又、訪問時意見・不満・苦情・気づき等の声かけの機会を作り、朝・夕申し送り時出された意見・要望・苦情等話し合いケアに即反映させている	玄関に意見箱は設置されていますが、それに入ることは少なく面会時等随時意見を聞くようにされています。家族会からの意見で運営推進会議への家族参加が交代で行われています。	家族会での意見交換も活発に行われ運営に活かされているようですが、意見を言いにくい利用者・家族からの意見・要望をどのように把握するか、どういった形で受けた意見を返していくか等々の取り組みを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	: 毎日の申し送り時や月1回の勉強会・食事会を行い、話しやすい場面作りや随時意見・提案を聞く機会を作り又、他部所との交流も兼ねレクリエーション委員を選出、代表者・管理者の参加で情報交換を行っている。	毎月代表者から手渡しされる給料日に日頃の提案や悩みを聞いたり、各事業所が集まる月1回の主任会議や年1回の職員総会で意見を聞く機会が設けられ、ハード面からソフト面まで直ぐに解決できるよう取り組まれています。	職員さんからの意見や提案がどのような内容だったのか、どのように事業運営に役立ったのか、記録に残すことで次年度計画に生かされ、職員さんも運営に参加している意識がより一層向上するのではないのでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	: 勤務表作成前に個々の希望・要望を提出、柔軟に対応し意欲的に働ける人員確保、資格取得や実践的効果に向けた支援「楽しく・やりがいのある職場作り」をモットーに職員の心身共に健康な職場環境継続		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	: 研修委員を各部所より選出し、県・市・認知症部会・他事業者・病院等の研修予定情報提供・出席の声かけを行い参加の機会確保、参加者は報告書を提出することで再度、意識・知識・技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	: 市内に連絡会が設置され、毎月管理者・職員の研修会・他施設の見学や相互研修会での事例検討等を通して、事業所外の人材の意見や経験をケアに活かし質の向上に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	: 事前に会い生活・心身の状態や本人の思いを把握するようにし、傾聴や会話をしながら職員が利用者に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	: 家族の不安や困っていること、これまでの経緯などをゆっくり聴き・理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか等、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	: 相談時、本人・家族の思いや状況を確認しながら前担当ケアマネジャー等と連携しながら、必要に応じてサービス機関に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	: 好まれる事・出来る事等の得意分野の見極めや理解・分かり合えることで、お互いが協働しながら達成感や満足感を得ながら、和やかな生活が出来るように場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	: 家族の思いを受け止め、日々の暮らしの出来事や気づき等の情報共有に努め、家族と同じような思いで支援していることを伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	: 体調や天候等を考慮しながら、家族の協力を受け自宅で過ごされたり、友人知人との談笑や行きつけの美容院や親類の集まりにも参加されたりと、継続的な交流が出来るように働きかけている。	お盆やお正月に家族と自宅で過ごされたり、誕生会や行事等への家族や地域の方々の参加依頼、地域の公園等へのドライブなどの関係継続支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	: 心身の状態や気分・感情で日々時々変化するので、職員が注意深く見守り利用者同士の関係性がうまくいくように情報を連携・共有しながら、調整役となり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	:入院や他事業所へ転居された後も家族からの相談や情報提供をしたり、必要に応じて他事業所の担当者にも利用中に培った関係性等の情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	:日々、声かけを行い言葉や表情などから確認するようにしている。意思疎通が困難な方には家族からの情報や関係者からの情報を得るようにしている。	家族からの聞き取りや、日頃過ごす中での利用者の表情や言葉の端々で感じとれること、穏やかな表情で過ごして頂けるのはどういった事か等、その場その場で対応するように努力されています。	時間が経過するなかで、1人ひとりの思いや意向も変化してくると思われます。家族からの聞き取りや日常の業務の中で思いや意向をくみ取るようにされていますが、その思いや意向を把握する記録が少ない事が残念です。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	:利用前に、ご本人や家族・関係者などから聴き取る様にしているが、本人自身の語りや家族・知人等の訪問時など会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	:利用者一人ひとりの一日の生活リズムを把握し、言・行動や小さな動作から感じ取ったり、心理面の状況把握を行いながら、出来る事への参加声かけに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	:ご本人に日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、家族の要望や関係者の意見も含め職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、介護介護計画作成に活かしている。	介護支援専門員により介護計画原案作成やモニタリングが行われ、本人・家族、担当者を交えたサービス担当者会議で話しあうようにされています。その計画は月1回の勉強会の中でカンファレンスを行い職員全員が共有するようにされ、状態変化時は随時見直すようにされています。	介護計画に添った記録やモニタリングを職員1人ひとりが行うことでより深い共有になることも考えられます。今後も個別計画が利用者それぞれの日常生活支援になることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	:個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等身体的状況及び日々の様子が分かる様に記録している。いつでも全ての職員が情報確認・共有できるように勤務開始前の確認を義務づけています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	:本人や家族の状況に応じて通院同行や情報提供後の必要支援は柔軟に対応し、利用者にとっての負担の軽減を図ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	: 地域の警察・消防署・地域の三役(運営推進会議出席)民生員(いきいきサロンのボランティア団体)・祭り(神馬・花馬の訪問)等安全でより豊かな暮らしを楽しんでもらえるように協力を呼び掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	: 利用者それぞれ、以前からのかかりつけ医で訪問診療の継続・定期受診は家族同行を基本として、家族へ状態報告を行い又必要時は職員が同行したり、時には直接Drへ状態報告をし指示を受け対応している。	かかりつけ医と協力医への受診支援は原則、家族にて行われていますが、家族対応が難しい時や緊急時等は事業所にて受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	: 看護職員を配置して、介護職員も常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間には、介護職員の記録を基に連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	: 入院時には本人への支援状況や服薬関係の資料・情報等を提供し、顔を出したりして家族や医療機関のケースワーカー・ケアマネジャー等と情報交換しながら、回復状況など速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	: 重度化に伴う意思確認書を作成しているが一部の家族とターミナルケアに向け話し合いをした。日々の状態観察・情報の共有をスタッフ間で行い、体調変化時には医療機関へ連絡し迅速に対応・指示して頂けるように密に連携を図っている。	終末期介護マニュアル、緊急時対応、看取りの同意書を作成され、運営推進会議、家族会で説明がされていますが、今まで看取りの経験はなくその書類等を使用されたことはありません。事業所の方針として「最期まで住み慣れたグループホームで」という思いはあるようです。	今後看取り対応も考えられているようです。職員全員が重度化や終末期対応について理解を深めていかれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	: 消防署からの資料を基に患者情報記録を個々に記入し所定の場所に配置している。八代連絡部会や医療機関での急変や事故発生時に備えての勉強会に参加し日頃の状態観察や気づきに注意を払っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	: 年2回の消防訓練利用者参加(消防署連絡・自主防災訓練)を行い又地域の協力が築けるように運営推進会議で情報の提供をし、避難の手順・避難場所の確認を訓練する事で身につけるように実施している。	年2回夜間を想定した避難訓練や運営推進会議で働きかけをされています。隣接する施設が火災等の避難場所となっており事業所内で19:00以降は火を使わないといった取り決めをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	: 月1回の勉強会やミーティング等で職員の意識向上を図るとともに、日々の関わりの中で利用者の誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応の徹底を図っている。	声かけの配慮や対応など研修会や勉強会を行うことで少しずつ意識付けができスタッフ同志がお互いに声かけあいながら対応に注意されているようです。居室のドアに窓が3ヶ所あり部屋の中の様子がわかりますが必要時はカーテン等で目隠しをされ対応するよう心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	: 利用者一人ひとりの意思決定が出来るような環境づくりを心がけているが、意志表示困難な場合は表情や言・行動の小さな動き等でくみ取る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	: 基本的な一日の流れはあるが、利用者の体調や気分・思いに配慮しながら柔軟に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	: 洗面時鏡を見てもらい髪・髭剃り等の身だしなみのアプローチや行事・外出時にはお化粧品や以前されていたマニキュアも楽しまれ、家族同行で行きつけの美容院へ定期的に外出、他者は訪問散髪を受けられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	: 食材の下ごしらえや食前・後の台拭き等、準備や片付けを一緒に行っている。おやつ作りの際は利用者の無理なく、出来る範囲の作業を一緒に行い作る楽しみ、食べる楽しみを味わってもらえる様に心掛けている。	利用者一人ひとりのお弁当箱があり、お弁当を持って屋外で食事や誕生会等楽しむ事ができるよう支援されています。昼食を厨房職員が調理することで、日常業務として食材の下ごしらえやテーブル拭きを一緒に行うことが出来ているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	: 利用者の個々に合った水分量をDrに相談して、一日の水分量を計算・記録し水分の確保が出来るように好みの飲み物など提供、食事形態も無理なく摂取出来るように、体調や状態を見ながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	: 毎食後の口腔ケアの声かけ・誘導・個々の可動域に合わせ支援と、曜日や義歯の状態で洗浄を行い、起床時のお茶うがい・外出後の手洗い・うがいなど厳守している。以前よりのDr訪問歯科診療継続もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	:利用者それぞれの排泄パターンを記録や申し送り時に体調等と共に把握し、行動等様子を見てトイレ声かけ・誘導・介助などを行い、トイレでの排泄が出来て失敗に繋がらないようにしている。	基本的に2時間毎の排泄誘導を心掛け排泄パターンに添った誘導を心掛けておられます。気持ちよく排泄ができるよう水分摂取や薬についても主治医と相談され食事等で排便調整ができるよう取り組まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	:個々の排便リズムを把握し、朝食時のバナナ・朝おやつ時の牛乳・3時おやつ時のヨーグルトや食物繊維の摂取・水分の確保・軽めの運動等、生活のリズムが取れスムーズに自力排便になるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	:利用者の体調や状況により、随時入浴の声かけ確認を行い、毎日・シャワー浴・熱め・普通温・温め・少しの長湯・上がり時熱め等希望に添って入浴支援を行っている。	週3回入浴を基本とされ、毎日入浴される方が1名おられます。季節の柚子湯や菖蒲湯、入浴剤を使用したり、利用者の希望に合わせて2人での入浴など、楽しみながら入浴できるよう支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	:夜間に安眠出来る様に日中の活動を促し、室温や湿度など体調や季節に応じて調整し入眠出来る環境づくりをしている。休息は本人希望で居室や和室などで思い々にとられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	:勉強会や薬変更・増量など随時その日に申し送りし又、連絡ノートに記載し注意点等も含め情報の共有を図り、状態・症状観察を行いDrへ報告・相談・指示を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	:日常的にされていた洗濯物干し・取り込み・たたみや野菜の下ごしらえ・台拭き・屋内の掃除など個々や体調に応じて声かけし一緒に行うようにしている。歌を好まれる方が多いので一緒に歌ったりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	:気候や体調等に配慮しながら、レクリエーション時に戸外を散歩されたり、気分転換と季節の体感として公園で桜・藤の花・新緑見物・近隣の散策を一緒に行っている。:帰りたいとの希望時、天候や体調を配慮して外出支援しているが都度々は出来てない。	近所の散歩はほぼ毎日、隣のデイサービスや有料老人ホームへの訪問は随時行うようにされています。ドライブやイベント的な外出支援が年3回～4回全員参加で行われ、行事で外出の際は家族にも通知され現地集合される時もあるようです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	: 外出し買い物計画していたが店内散策や水分補給・休憩と買い物には至らなかったが気分転換を兼ねて個々で外出しレジで支払いをしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	: 直接家族と電話で話が出来、声が聞け安心に繋がるような支援や、季節に応じて暑中見舞いや年賀状を出されて返事のはがきが来たり、「はがきありがとう」との言葉家族よりある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	: 中庭には季節の草花等を植え日光浴をしながら過ごし、フロアーの窓辺でも思い々の姿勢で日光浴や景色を楽しまれ、壁面には季節や月行事毎の貼り絵・折り紙・ぬり絵と一緒に作成した作品を掲示し、ゆったりと過ごしてもらえる空間作りをしている。	リビングでのソファや椅子等利用者が共同で使う場所では個々人の席の配慮がされています。畳の場所が高くなっていますが、椅子代わりに座ったり、昼寝の場所や時には舞台になったりと様々な活用されているようです。中庭やテラスから自然の風景を見ることもできます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	: 日頃の関係性や相性なども配慮しながら、独りや気の合った利用者同士が思い々に過ごしてもらえる空間の提供をベランダや玄関先のベンチ等も利用して過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	: 利用者の体調・状態に合わせ、以前使用されて居られた家具や小物などDrや家族・専門事業所と共に検討し、好みや馴染みの物を活用しながら安心感に繋げている。	利用者の状態に合わせてベッドのみでなく、家族と相談しマットの上に布団を敷き起き上がり時の転倒防止に努めたり、必要時には居室のドアにミニカーテンをつけたり、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	: 本人が不安なく、自身の力で出来るか・分かれるかを職員間で話し合い、本人の不安材料を取り除き又、状態変化や新たな混乱・失敗が出現時は家族や職員で話し合い状況に合わせた環境整備を行っている。		